



同窓会だより

発行 愛知工業大学名電高等学校同窓会
〒464-8540 名古屋市千種区若水 3-2-12
TEL (052) 721-0311 (代表)

題字は故後藤淳・名古屋電気学園学園長・総長

「令和」の時代にも絆を育む伝統を



永井広明会長
(昭和51年卒業)

春の爽やかな風を感じる季節となりました。会員の皆様には日頃の同窓会活動にご理解とご協力を頂きましてありがとうございます。新しい時代の幕開けを

皆様と共に迎える事ができました事に喜びを感じております。殊に今年にはオリンピック・パラリンピックイヤーでもあります。同窓生の中にも出場が期待されている方もいると聞きしております。

今年度も現役高校生たちの目覚ましい活躍は、新時代にふさわしく、心に響く、素晴らしいものでした。卓球部は、インターハイの団体4連覇を達成。中学校、大学と共に完全制覇を成し、まさに黄金時代です。サッカー部は、新たに全国大会に初名乗りを挙げました。現地に行けなかった私は、テレビの前で大きな声援を送りました。春高バレーの出場を3年連続で果たしたバレーボール部の試合は、インターネットのライブ中継で、手に汗を握り、精一杯の応援をしました。インターネットの発展により、本当に便利な時代になったと感じます。また、中継等がない他の競技や、吹奏楽部をはじめとする文科系の部活も、全国大会に出場し活躍しています。若い現役生たちの活躍を今後も支援して参ります。

同窓会のイベント、第4回を迎えた「ホームカミングデー」は大盛況のうちに終了致しました。名電の同窓生である近藤欽司先生(卓球全日本女子代表元監督)の講演会等、年々盛大な催しとなって参りました。これも日頃の会員の皆様のご理解とご協力の賜物です。輝かしい伝統と同窓生との絆を、未来ある若い世代へと繋いで今後も同窓会の発展に尽くしてまいります。

新時代にふさわしい「ものづくり教育」を



後藤泰之理事長
(同窓会名誉会長)

昨年は、新天皇が御即位し、令和に改元され、新しい時代の幕開けとなりましたが、名古屋電気学園は、学園創立107周年を迎え、愛知工業大学は開学60周年、名電高校は開校70周年とそれぞれ節目の年でありました。これもひとえに各設置校の同窓生の皆様のご支援によるものと心から感謝申し上げます。

学園は、名電中学校と名電高校の中高一貫教育、名電高校と愛知工業大学の7カ年一貫教育、また愛知工業大学情報電子専門学校から愛知工業大学への編入学など、学園全体で、「ものづくり教育」を柱に、創造力と豊かな人間性を兼ね備えた優秀な人材育成に努めております。

学園創立以来、学習と部活動の両方に力を入れていますが、昨年は、卓球部が全国大会で初めて学園完全優勝(全日本大学総合卓球選手権大会男女優勝、全国高等学校卓球選手権大会優勝、全国中学校卓球大会優勝)を成し遂げました。高校では、サッカー部が念願であった初の全国大会出場を果たし、バレーボール部も全国大会に出場し、中学校でも、全国中学生フエンシング選手権大会で優勝するなど、大いに活躍して、学園全体に活気を与えてきています。

名古屋電気学園を取り巻く環境は、少子化、人材ニーズの多様化など、引き続き厳しい状況が立ちはだかっていますが、それでも進化を続けていくことが求められています。教職員一人一人が丸となって、令和新時代にふさわしい人材育成という使命を果たす覚悟でございますが、同窓生の皆様にも、引き続き本学園に変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2020年東京パラリンピック出場を目指して

日本体育大学

今井 大湧なかい たいゆう

(平成29年卒業)

津島市立神守中学校出身

現在、日本体育大学3年に在籍して、障がい者バドミントン(パラバドミントン)で東京パラリンピック出場を目指して頑張っています。今春の選考会で決まるため、もっか国際大会でランキングを上げていくように奮闘しているところです。

パラバドミントンは、上肢機能障がい、下肢機能障がいなどの障がい別に分かれています。私は左腕に障がいをもっているため、上肢機能障がいの種目に出場しています。左腕に障がいがあるだけなので、健常者のバドミントンとプレーは一緒です。

私は小学校5年生のときにバドミントン競技と出会いました。みんなと一緒に練習活動を行ってきたので、自分が障がい者という意識を持つことがありません。中学校のときも全国

中学校総体出場を目指して頑張ってきました。そんな自分に「インターハイを目指して、名電でバドミントンをやってみないか」と名電高校から部活動推薦の誘いを受けたのが平成25年の秋でした。インターハイを目指して、バドミントンを極めていきたい気持ちが高まり、縁あつて愛工大名電高校に入学することができました。

私がパラバドミントンをやってみるきっかけとなったのが、高校2年生の秋のことです。父親から障がい者バドミントンの大会に参加することを勧められました。パラバドミントンが東京パラリンピックから正式種目になることを控えて、障がい者連盟の人たちが全国でバドミントンをしている人たちを発掘していたのだと思います。しかし、障がい者という視点で今まで自分を考えたこともなかったし、健常者のみんなと一緒にインターハイを目指して、毎日の練習に取り組んできたので抵抗を感じました。そんな時、顧問の日詰

先生が、「お前にしかできないことだから、やってみろ」と言われて、やってみる気持ちで、初めて参加したのが平成28年2月に開催された「第1回日本障がい者バドミントン選手権大会」でした。

初めての大会参加で他の選手とは会ったことも試合をしたこともなかったのに緊張しましたが、いつも通りのプレーをすることができ、大会初参加で上肢機能障害のシングルの部で優勝をすることができました。

この優勝がきっかけとなつて、翌年、高校3年生の6月には日本代表に選出されて北アイルランドで開催されたパラバドミントン国際大会にシングルスとダブルスで出場することになりました。初の国際大会の試合結果は、ダブルスが準優勝、シングルスが3位という結果でした。

今でも忘れることができないのが、この時、理事長先生から国際大会遠征の激励金と励ましのお言葉をいただいたことが心に残って



高校3年生の1月、世界ジュニア卓球で男子団体優勝した卓球部代表と一緒に、国際大会の成績報告を愛知県大村知事に表敬訪問した際の写真
(左から、卓球部今枝監督、岩間校長、木造、松山、知事、今井、理事長、日詰先生)

います。

残り少ない日々を大切に、東京パラリンピック出場とメダル獲得を目指して邁進していきますのでご声援よろしくお願いします。

代表選考の流れ

2019年の1月から2020年3月29日までの選考レース期間に行われる国際大会での獲得ポイントに応じて、2020年4月に国際バドミントン連盟が発表する世界ランキングで上位の選手が内定する予定。

第4回 ホームカミングデー

愛知工業大学名電高等学校同窓会は、昨年11月9日(土)にホームカミングデーを開催いたしました。平成28年から始まった里帰り企画で、今回で4回目となりました。

午前9時に受付が始まると同窓生たちが次々とやってきました。学生時代と変わらない人もいれば、結婚してお子さんと一緒に参加した人達など、集まった同窓生は高校時代の思い出話や、近況を報告し合って旧交を温める様子もありました。



受付に集まる同窓生の皆さん



ホームカミングデーは南校舎で開催



OBで卓球全日本女子元監督の近藤欽司先生

午前9時30分からは、OBで卓球全日本女子チームの代表監督を務められた近藤欽司先生の講演がありました。高校時代のエピソードに始まり、日本の女子チームが団体に銅メダルを獲得したお話や、2008年の北京五輪での試合中の緊迫した場面のこと等、貴重なお話の数々に現役の卓球部員をはじめ、多くの人達が耳を傾けました。



吹奏楽部の演奏



ダンス部の演技



チアリーディング部の演技

その後、午前11時から体育館でチアリーディング部、ダンス部の演技披露、淳和記念館で吹奏楽部の演奏がおこなわれました。



恩師との懇談



移動販売車によるケータリングの食事

昼食時には、昨年に続き移動販売のキッチンカーでOB運営のココ壺番屋のカレー、ホットドッグ、アイスブリュレクレープ等の食事を用意しました。午後からは、平成22年卒・23年卒の同窓生の皆さんに教室を開放して、懇談の場を設けさせていただきました。懐かしい仲間や恩師との再会を喜ぶ姿が印象的でした。午後3時頃からは、吹奏楽部の卒業生が現役生と一緒に演奏を楽しむ催しが行われました。

第5回 ホームカミングデー開催のお知らせ

同窓会では2020年秋のホームカミングデー開催にあたり、同窓会の幹事やサポートスタッフの募集、イベントについてのご意見等も受け付けております。

詳しくはホームページでお知らせします。

<http://www.meiden-ob.net/>



吹奏楽部の現役生とOBOG会の「音出し会」

ホームカミングデーは、学年、クラス、部活動単位での同窓会を開催することができますイベントです。毎年11月頃を予定していますので、開催希望の幹事さんは、8月頃までにご連絡をよろしく願いたします。

イチロー選手引退に寄せて

東京ドーム2019年MLB開幕シリーズの最中に、マリナーズ・イチロー選手の現役引退ニュースが流れた。まさか?いま試合に出場中の選手が電撃引退表明するなんて?またイチロー得意のジョークか何かの間違いでは:数年前に会った時、イチローは私に「メジャーの選手と対等に戦おうとしても無理です。頭を使ったプレースタイル、日本野球は凄いいんだぞとアピールするために50歳までプレーしたいんです」と語っていたからだ。開幕戦ではヒットこそなかったが、まだまだ守備と足は健在であると見ていた。



東京ドーム

31年前、高校野球入門の時に「プロ野球選手になるために愛工大名電高校に入学しました」と言っていた。170cm55kg。その年に入部した新人選手の中では最もスリムで、スタミナもなかった。しかし、1年ごとに技術と肉体が進化するその成長ぶりに驚かされた。日々の野球への姿勢はストイックで、ノルマを自らに課し、将来を見据えていた。決して自主練習の姿や努力の跡を他人に見せることはなかった。まさしく「努力の天才の姿」である。イチローの信条「継続は力なり」を体言し、野球ファンならず多くの人々に夢と感動を与えてくれた、記録と記憶に残るスーパースター。日米の現役生活を通じて、いつも周囲を驚かせてきた。ふつうならお疲れさまと労いのコメントを贈るものと思うが、イチロー選手に關してはありきたりの言葉では終わらない。この先きつと、イチ流のギフトで私たちを再びビックリさせてくれるんじゃないかな?



淳和記念館のイチロー選手のコーナー

いいぞ、いいぞ
 ICHIRO!!
 やったぜ ICHIRO!!
 2019.4.9
 愛工大名電高校野球部監督
 (イチロー選手高校時代のコーチ)
 倉野光生

「ありがとう イチロー選手」

MLBシーズン最多安打記録(262安打)、プロ野球通算安打世界記録(NPB/MLB通算4257安打)、同・最多試合出場記録(NPB/MLB通算3563試合出場)など、数々の金字塔を打ち建てたイチロー選手が、3月21日、東京ドームで行われたマリナーズ×アスレチックス戦を最後に現役引退を発表しました。母校・愛工大名電高校は、正門時計台に「ありがとう イチロー選手」と大書した懸垂幕を掲げ、偉大な卒業生に対する感謝を表しました。



母校に掲げられた懸垂幕

プロ野球オリックスに入団して3年目の平成6年、イチロー選手は当時のプロ野球記録となる210安打を放ち、快挙をたたえて学園は後藤鉦二賞を贈りました。

野球部に思い入れが深かった前学園総長の故後藤淳先生は、生前、イチロー選手との出会いを振り返り「あえて言うなら、普通の人じゃない。ゴーイングマイウェイで、自分の信念だけでやってきた。その点、実に大したものだ」と感嘆していました。

現役を引退したとはいえ、イチローさんの活動に幕が下りたわけではありません。これから先、どんなサプライズを繰り広げてくれるのか、学園にゆかりの皆さんとともに楽しみに見守りたいと思います。

文 学園広報

活躍する先輩

同窓生の中には、劇団四季の俳優として活躍する人がいます。今回はご本人に寄稿していただきました。



劇団四季所属の俳優

かわた たくや
河田拓也さん
(平成21年卒業)

ジャズダンス、クラシックバレエ、タップダンスや、声楽、殺陣等を学び、2013年劇団四季の研究所入所。

- <主な出演作品>
- 2013年『ウィキッド』(男性アンサンブル)
- 2014年『ウィキッド』(男性アンサンブル)
- 『魔法をすてたマジョリン』(男性アンサンブル)
- 『マンマ・ミーア!』(男性アンサンブル)
- 2016年『ガンバの大冒険』(アンサンブル)
- 2017年『ガンバの大冒険』(七郎)
- 2018年『ガンバの大冒険』(七郎)
- 2019年『エビータ』(男性アンサンブル)

学校生活の思い出

名電高校での思い出は沢山ありますが、やはり部活動での思い出が色濃く残っています。高校時代はサッカー部に所属し、毎日高校の横にある千種公園で汗を流していました。1年生の時は雑務全般、2年生になると後輩の指導も担当し、そして3年生ではチーム全体のバランスをとり責任を持たなければならぬので、とにかく必死の3年間でした。ただ、そこでの経験が社会人になって大きなアドバンテージになっていると思います。当時は大変でしたが過ぎ去った今だからこそ楽しかったと笑って話せる、そんな思い出が沢山詰まっている場所が名電高校サッカー部でした。

俳優を目指したきっかけ

高校3年生の芸術鑑賞会で劇団四季の『マンマ・ミーア!』を観たことが全ての始まりでした。それまでの人生はサッカー一筋で舞台芸術に触れる機会はほとんどなく、劇場という空間も新鮮でした。舞台上で輝く俳優の姿に心を奪われ、「自分もいつかあの舞台に立ちたい!」と思ったのがきっかけです。観劇後、帰りの電車の中でどうすればあの舞台に立てるか、ずっと考えていたのを今も覚えています。スポーツ系の大学から急遽芸術系の大学に進路変更し、4年間でダンス・歌・演技を学びました。卒業と同時に劇団四季研究所に入所し、2年後に念願だった『マンマ・ミーア!』に出演することができました。

将来の夢

夢とは日々変化し成長するもので、この文章を書いている時と、皆様がこの文章を読む時とで変わっているかもしれません。それだけ夢は「生物」だと思えます。ただ一つ変わらない夢は、「感謝」の気持ちを意識的に持つて人生を歩み続けたいという事です。感謝の気持ちはいつの間にか当たり前になりがちです。今まで支えてくれた両親への感謝。夢を与えてくれた名電高校への感謝。そして夢を叶えさせてくれた劇団への感謝。挙げれば尽きませんが、そうした思いを胸に抱きながらこれからも日々精進し舞台上に立ち続けたいと思います。

令和2年度卒業
クラス幹事のみなさん

※印は代表幹事

【科学技術科】

- A組 富石剛汰・松浦京平
- B組 大屋周馬・前田絢平
- C組 藤原昂大・村上朝陽
- D組 高井俊輔・源川慶太

【情報科学科】

- A組 岡本 愛・福井亮人

【普通科】

- A組 浅野正敏・宇佐美泰雅
- B組 島田未夢・森島 優
- C組 榊原沙優・渡瀬美月
- D組 安達有那・加藤大耀
- E組 水谷一景・横井 空
- F組 後藤巖楽・三宅亜純
- G組 酒井樹里・早川佳汰
- H組 増子凜香・服部さやか
- I組 ※鈴木駿太・西村将利
- J組 川村篤哉・鷲尾昌広
- K組 鈴木啓太・鈴木開登
- L組 小林涼太・松浦友大

令和元年度役員総会開催

名電高等学校同窓会は、令和元年度役員総会を5月17日に名古屋市内のホテルにて役員出席者27名(委任状7名を含む34名)で開催しました。

永井広明会長の挨拶、岩間博校長の学校現況報告の後、平成30年度の事業報告及び収支決算が報告され承認されました。また、令和元年度事業計画(案)及び収支予算(案)を審議

し、今年度より新たに設けられた事業「同窓会奨学金」が審議の結果承認され、閉会となりました。

◎同窓会からお祝い◎

令和元年度、高校のクラブ活動などに激励とお祝いをしました。

卓球部、フェンシング部、相撲部、ウエイトリフティング部、バレーボール部、チアリーディング部、将棋部、競技かるた部、水泳競技部、吹奏楽部、サッカー部、ボウリング部、吹奏楽部(マーチング)、競技スキー部、センター試験受験生激励(クリアファイナル等購入)進路指導部

◆おこやみ◆

中野正紀(教頭)先生

令和元年8月31日に逝去されました。享年80歳でした。昭和39年3月に本校教員となり、平成18年3月に退職。在職中はバドミントン部の顧問で、多くの選手を育成されました。

加藤(石川)芳美先生

令和元年4月25日に逝去されました。享年71歳でした。昭和45年4月に本校教員となり、平成25年3月に退職。バレーボール部の顧問をお勤めになり、全国高校総体13回、春高バレーに7回出場しました。

伊藤誠(野球部長)先生

病氣療養中でしたが、令和2年2月23日に逝去されました。享年62歳でした。平成28年に本校教員となり、平成30年夏の甲子園出場など、野球部の強化に尽力されました。

高校卓球部がインターハイ団体4連覇・中高大で全国優勝

卓球部

7月に行われたインカレで愛工大が男女アベック優勝をしました。おめでとございます。中学・高校卓球部一同現地で応援しましたが、深い感動と共に次は「自分たちが…」と言う勇気をもらいました。そして後藤泰之理事長先生の夢である大学・高校・中学そろつての優勝を目指し大会に臨みました。

大会は鹿児島アリーナで行われ、選手たちは力強くプレーし、順調に学校対抗の決勝戦まで進むことができました。決勝の相手はライバル野田学園(山口県)。1番の加山選手(3年)が前年度チャンピオンの戸上選手



インターハイ4連覇を達成した卓球部

と対戦。いきなり2ゲームを落とし、第3ゲームも5・10で負けているところからインターハイ史に残る大逆転勝利を収め、一気に流れを引き寄せました。2番の曾根選手(2年)は勝たなければ…という重圧の中、必死にポイントを重ね勝利。3番ダブルスの対戦相手は今年度ダブルスチャンピオンの戸上・宮川選手。こちらは決勝戦用に準備していた曾根・篠塚選手の対戦でした(準決勝までは加山・曾根選手で出場)。

全国大会で初めて組んだダブルスでしたが見事に勝利し、インターハイ団体4連覇(優勝18回目)を決めました。一年生の篠塚選手は決勝戦でも動じず、落ち着いたプレーで勝利に貢献してくれました。

9月3日には祝賀会も開いていただき、理事長先生はじめ、関係者の皆様方に感謝しております。今後は世界で活躍できる選手を目指し、大学、高校、中学と協力し、選手と共に目標に向かってがんばりたいと思います。



シングルス準優勝
篠塚大登選手



ダブルス準優勝
加山裕(左)・曾根翔選手

将棋部

8月に全国高等学校将棋選手権大会が佐賀県で行われました。予選1・2回戦は3・0。3回戦麻布(東京都)戦は2・1。4回戦の県立浦和(埼玉)戦には1・2で、決勝トーナメント進出(3勝1敗以上が条件)を決めました。

決勝トーナメントは15校中6位で通過しました。準々決勝は1日目最後の対局となり、かなりの疲労困憊状態でしたが、2年連続準優勝の岩手高校(10年間で3回優勝)を相手に、大将吉田(3年)はいい形勢ながら逆転負け、三将瀬野(3年)は岩手・王将に完封完勝しました。副将亀山(2年)は岩手・副将になんと300手を超す大熱戦の末勝利。まさか名電が勝つとは思っていなかったようで、場内は騒然となりました。この勝利は本当に感動しました。

準決勝は予選で負けた県立浦和戦で、大将吉田・三将瀬野が完勝で雪辱を果たしました。

決勝は甲南高校(兵庫県)に1・2で敗れ、大変残念でしたが、創部以来、

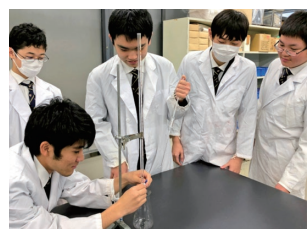


表彰式後の将棋部員たち

男子団体戦準優勝という最高の成績が残せました。

科学部

科学部は現在、毎年凡そ十数名の部員で活動をしています。物理部・化学部と分かれて活動していた時代もありましたが、合併した今は区別なく、それぞれが興味のある自然科学分野全般を日々探究しています。現在は大会等には出場していませんが、学校説明会や愛知サマーセミナー等で小中学生向けの実験講座を行ったり、年に一度合宿を行っています。



科学部の活動の様子
セミナー等での中学生向けの実験講座を行ったり、年に一度合宿を行っています。

アーチェリー部

アーチェリー部は3年生5名、2年生7名、1年生8名で活動しています。部員のほとんどが高校から競技を始めています。校内に練習場がないため、公設の練習場まで出掛けています。個人競技であります。個人競技であります。個人競技であります。



アーチェリー部の部員たち

男子団体戦準優勝という最高の成績が残せました。

高校サッカー、バレーボール両部が全国大会で熱い戦い

年末年始の時期、高校運動部の選手たちが大きな夢を見せてくれました。サッカー部が第98回全国高校サッカー選手権大会に、創部以来となる初出場。バレーボール部は、第72回全日本バレーボール高校選手権大会(春校バレー)に、3年連続17回目の出場を決めました。

壮行会でエールを送る

全国大会出場に先立って、両部の壮行会が行われました。バレーボール部の工藤峻平主将、サッカー部の鈴木郁人主将、それぞれの決意表明の後、岩間博校長が「監督・スタッフ、選手・部員、応援の生徒が一つになつての『ワンスクール』としての『ファンスクール』として勝ちえた全国大会出場。最後まであきらめず、名電の仲間たちに力を与えてほしい」と激励しました。

当日、それぞれの試合会場の応援席は、クラスメイト、他部員をはじめとする生徒や学園関係者で埋まり、二丸となって「MEIDEN 頑張れ！」の大声援を送りました。

サッカー部



全国高校サッカー選手権初出場のサッカー部の選手たち

「明るく前向きに」がモットーの名電サッカー部は、宮口典久監督の下でチームを鍛えてきました。そして、愛知県大会の決勝で、岡崎城西を下し1968年創部以来初の全国選手権を射止めました。

選手権初戦は、福岡代表の筑陽学園と対戦。12月31日正午過ぎ、キックオフした名電の戦いは、全国レベルの強豪を相手にしても変わらず、序盤から果敢にゴールに迫りました。主将・DF鈴木郁人(3年)らの堅守もチームを盛り立てましたが、前半アディショナルタイムでの失点を挽回できず、惜しくも0-1で初勝利を逃しました。

バレーボール部



春高バレー2回戦に挑む選手たち

11月に行われた愛知県大会決勝は、大同大同高校と対戦。勝負の第5セットを16-4で制して3年連続、17回目の春高切符をつかみました。

選手権(1月5-12日・武蔵野の森総合スポーツプラザ)の1回戦は鳥取中央育英高校と対戦し、第1・2セットと連取して勝利を決めました。

2回戦は、過去2回の優勝実績がある東福岡高校と対戦し、第1セットを17-25と失ったものの、第2セットを25-22と取り返しました。勝負の第3セットで一時はリードを奪いましたが、接戦をものにならず23-25と涙のみでした。

フェンシング部

鹿児島県霧島市の牧園アリーナで開催された全国高校総体フェンシング競技で、加藤響選手(3年)が男子サーブル準優勝を飾りました。

このほか、男子学校対抗で2年連続の3位、エペで古橋諒樹選手(3年)が5位、フルレで太田拓輝選手(2年)が7位と、全種目で入賞を果たしました。



団体3位入賞の選手たち



加藤響選手

水泳競技部

8月に開催された、第42回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会で、與河礼奈選手(1年)が女子200m平泳ぎで第3位に入賞しまし

た。日本人トップスイマー名鑑2019に掲載されており、今後の活躍が期待されています。



賞状・メダルを手にする與河礼奈選手

吹奏楽部

高校吹奏楽部の定期演奏会が1月8日、名古屋国際会議場センチュリーホールで昼夜2部にわたり開かれました。55回目の今年は、高校の部全国最多42回目の出場を果たした2019年度全日本吹奏楽コンクールの曲目を心を込めて演奏しました。



吹奏楽ファンを魅了した定期演奏会「オセロ(1977)」、ステージ・ドリル、「美女と野獣」メドレー、「パプリカ」、「証(あかし)」など部のモットーの【絆】の強さを魅力たっぷりに伝えました

岩間博校長の学校報告



岩間博校長

永井会長様をはじめ同窓会会員の皆様には、日ごろから本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございますことに心から感謝申し上げます。

平成31年から令和元年度は、高等学校として本校が新たな歩みを始めて70年の節目となる年でもあります。

この間、5万人を超える卒業生の皆さんが本県のものづくりにかかわる様々な分野で活躍され、その存在とネットワークが、愛知工業大学等も含めた学園を支える大きな力となっています。この節目の年を祝うかのように、今年度も部活動において「愛工大名電」の名の下に、素晴らしい成果をあげることができました。

夏には、大学、高校、中学

「七十年の歴史を糧に更なる飛躍を」

の各卓球部が、それぞれの全国大会において、いずれも優勝するという快挙を達成しました。また、フェンシング部は、2年連続でインターハイ第3位となりました。さらに、特筆すべきは、サッカー部が創部51年目にして全国高校サッカー選手権大会に初出場を果たしたことです。初戦で敗れましたが、ほぼ満席となった応援席からの声援を力として、チーム全員が惜しまず最後まで全力で走りぬく姿が印象的でした。

春高バレー全国大会に3年連続出場を果たしたバレーボール部も2回戦で、大接戦の末敗れはしましたが、強豪校と互角に競り合い、次につながる貴重な経験を積むことができました。

文化部においても将棋部が全国大会団体戦にて準優勝を勝ち取り、吹奏楽部は今年も全国大会出場を果たすとともに、新天皇陛下即位後初の公式行事としての全国植樹祭や天皇御即位奉祝愛知県民祭典奉祝パレードにて演奏する機会を与えていただきました。

ました。学習に関しては、より主体的な学習姿勢を身につけることなどを目的に、今年度から1年生全体で探究的な学習活動に取り組んでいます。

3年生の中には、目的意識をもって授業後も意欲的に学習に取り組む生徒が増えており、昨年の秋に行われました推薦入試において、18名が国公立大学に合格するなど、主体的に学ぼうとする姿勢が好結果をもたらしつつあるように思います。

愛工大も含めて愛知県内の各大学の入試が年々厳しさを増す中で、生徒一人ひとりが大学の専門的な学びに適応し、やがては社会の第一線で活躍できるように、学習指導の更なる充実に取り組んでまいります。

今後とも、同窓会の皆様には、母校に対する温かいご支援を心からお願い申し上げますとともに、会員の皆様のご健勝、ご活躍を祈念しつつ報告とさせていただきます。

高校PTAから



細萱美知代 高校PTA会長

「107年の伝統ある名電高等学校」

同窓会会員の皆様には、

ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。令和元年度のPTA会長を務めさせていただいております。細萱美知代と申します。

今年度は学園グループの卓球部が、中学校・高校・大学それぞれ全国大会への出場を果たし、そのすべてで日本一という素晴らしい結果を出しました。

また秋に行われた高校の選手権においてはバレー部が3年連続、そしてサッカー部が初の全国大会出場を獲得しました。

名電の優勝には選手の頑張りの他にもありますが、切磋琢磨する仲間・先生方そして長年のOBの方々の支えや応援があったからだと感謝申し上げます。

9月の文化祭PTAによる模擬店では、1年から3年生役員で焼き肉ライスパーカー600個を完売し、大好評でした。生徒たちの好み・栄養面・衛生

面・安全面・安価・インスタ映えする事など私たちが知恵を出し合いながら取組ませて頂きました。生徒たちと共に有意義なひとときを楽しく過ごさせて頂きました。

様々な夢を抱き志高く進学してきた子供たちが建学の精神「誠実・勤勉」の下で、まじめに一所懸命励んだおかげで、生徒たちも私たちPTAも本年度たくさんの素晴らしい経験をさせて頂きました。

今振り返ると、あつという間の一年間でしたが、100年以上の歴史を刻んできた名電高等学校の伝統を無事に引き継いでこれたと感じております。

2020年はいよいよ東京五輪が開催されます。スポーツが盛んな名電から、未来の日本代表を担う選手が出てきてくれたら、こんなに嬉しいことはありません。

これからも多くのOBの皆さんとともにPTAがひとつになって学校を支え、応援していくことにより強靱なONETEAMとなり、さらなる活躍を願っております。